

二十八日、晴、南風、桑野久任、田中兩氏着、赤松氏去る、上曳例の如し。

二十九日、曇、上曳例の如し、桑野高橋兩氏去る、文學士

五島陸三郎氏來場。

三十日、雨、北風。

三十一日、曇、北風、田子氏去る。

九月一日、南風強し、曇、後晴、田中畑兩氏去る。

二日、惠利、五島兩氏去る杉浦親之助氏來場。

三日、記すべきことなし。

四日、ドフライン博士來訪、郡場寛氏來場。

五日、晴、ドフライン、杉浦諸氏去る。

六日、雨。

七日、晴、微風、飯島教授磯採集をなす、栗野氏再來し

て直ちに去る。

八日、小野氏去る。

九日、晴、飯島教授去る。

●本學年理科大學動物學教室に於ける三年生の研究事項を聞くに石田收藏君は哺乳動物に就て、三宅恒方君は蠅

の發生に就て、妹尾秀實君はデストマに就て、藤田輔世君は纖毛蟲に就て、孰れも大に勉學せられ居る故にその結果は早晚發表せらるべく本誌亦請ひて登載する事あるべし。

### ●爬蟲類の分類に就て(第一回)

Henry Fairfield Osborn 著

田中茂穂 譯

分類の原理 爬蟲類の分類法の發達歴史は、他の脊椎動物の分類法と同じく段々善く眞理に近づき進むを見る、概括して之を云はゞ、皮層的より根原的諸性質に、應化的諸性質より系統的性質上眞の類似點に着目するに至り、一世紀半の間は全く皮層上の類似及相似の適應を基として分類を試みたるを以て、益々眞の分類を放れんとせり、蓋此の分類法は、一道の理論上に立ちたる者にして、林那氏の分類法の如きは、全く動物特生説の上に立てる者なり、現今の分類法は之に反し、Lamarck, Darwin 諸氏の進化説を基とし、親疎の樹枝狀關係によれり、